

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	国際電波科学連合
	英	International Union of Radio Science (略称 URSI)
	団体 HP (URL)	http://www.ursi.org/ (日本学術会議が加盟していることの記載 有 ・ (無))
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)	<p>(1) 学術の進歩</p> <p>URSI が行う取組みは、次の 3 点に集約される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人類の利益のために、電波科学とその応用に関する国際的活動の活性化と促進を図る。 ・ 電気通信の学術的側面からの研究活動を奨励し、促進させる。 ・ 一般社会及び公的・民間諸機関に対し、電波科学分野を代表する存在としての役割を果たす。 <p>(2) 推進体制の変化</p> <p>① URSI 旗艦会議の開催</p> <p>2014 年までは URSI が主催する大型国際会議は URSI 総会だけであったが、世界の電波科学者相互の情報交換及び交流をより迅速・活性化すべく、総会と総会との間の 2 年間に新たな 2 つの国際会議を開催することを決定した。これにより、2014 年総会 (中国・北京) 以降、3 つの「URSI 旗艦会議」(URSI Flagship Meeting) が、3 年周期で以下の通り毎年開催されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Y0 年 : URSI 総会 (URSI GASS) ・ (Y0+1) 年 : URSI 大西洋電波科学会議 (URSI AT-RASC) ・ (Y0+2) 年 : URSI アジア・太平洋電波科学会議 (URSI AP-RASC) <p>② URSI Individual Membership の導入</p> <p>URSI は、2016 年より個人会員制度 (Individual Fellowship、Individual Membership 及び Individual Associate Membership) を導入した。これは、個々の研究者・技術者が電波科学の発展並びに URSI の活動に大きく貢献していることを、URSI が公式に認定するものである。Fellow は URSI 名誉会長、会長、副会長、事務局長、副事務局長、Commission 議長、URSI 学術賞受賞者などを対象とする。また、Member は電波科学者として十分な業績・経験を有するとともに URSI の活動に大きく貢献している研究者・技術者を対象とし、Associate Member は Member に準ずる業績・経験または URSI への貢献を持つ者を対象とするものである。</p> <p>(3) 国際機関等との関わり</p> <p>国際電気通信連合無線通信部門 (ITU-R) と、電気通信に関する国際標準規格等について協議している。また、電磁波の生体</p>	

様式第 2 (第12条関係)

	<p>への影響に関する指針について、世界保健機構(WHO)と協力しながら検討を行っている。</p> <p>(4) URSI 生誕 100 周年</p> <p>2019 年は、URSI 設立 (1919 年) のちょうど 100 年目にあたる。これを記念し、URSI 関連の国際会議にて、様々な記念イベント (特別セッションなど) が検討・企画されている。また、URSI 本部は「URSI Centenary Book」(URSI 設立 100 周年記念誌) を刊行すべく、現在準備を進めている。同記念誌には URSI 分科会作成による「Japan National Committee of URSI」の章 (Chapter) も掲載される予定である。日本でもこの機会に URSI 分科会主催シンポジウム (URSI 生誕 100 周年記念) を開催し、我が国における電波科学研究発展の歴史及び最先端の研究を紹介し、電波科学の重要性を広く訴える予定である。</p>
<p>政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について</p>	<p>(1) 研究テーマ</p> <p>電波利用における電磁波環境の解析と人体への影響、電波による電力伝送、自然災害・環境破壊への対策、電波の科学的利用と商業的利用の共存・共栄など。</p> <p>(2) 研究方式・研究助成方式等</p> <p>以下の重要課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発展途上国における URSI 関連活動の活性化を図る。 ・ 先進国における URSI の活動に関し、新しい展開 (学会・企業との連携など) を図る。 ・ URSI 総会等で実施している若手研究者プログラムを更に強化する。 ・ URSI の活動を支える女性研究者を育成・支援するための方策を確立する。
<p>日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて</p>	<p>(1) アジア・太平洋電波科学会議</p> <p>アジア・太平洋地域における電波科学研究及び URSI 関連活動の一層の活性化と発展を図ることを目的として、国際会議「アジア・太平洋電波科学会議」(Asia-Pacific Radio Science Conference : AP-RASC) の開催を URSI 本部に提案し、実現した。AP-RASC は 2001 年に第 1 回が東京で開催され、その後、以下の通り、基本的に 3 年毎に開催されている。</p> <p>2001 年：第 1 回 (開催地：東京)</p> <p>2004 年：第 2 回 (開催地：中国・チンタオ)</p> <p>2007 年：都合により休会</p> <p>2010 年：第 3 回 (開催地：富山)</p> <p>2013 年：第 4 回 (開催地：台湾・台北)</p> <p>2016 年：第 5 回 (開催地：韓国・ソウル)</p> <p>2019 年：第 6 回 (開催地：インド・ニューデリー)</p> <p>AP-RASC は、これまでの開催実績が URSI 本部から高く評価されていることから、2016 年より URSI AP-RASC として、URSI 総会並びに URSI AT-RASC とともに「URSI 旗艦会議」の一つに位置づけられている。URSI AP-RASC は、今後も引き続きアジ</p>

様式第 2 (第12条関係)

	<p>ア・太平洋地域で開催されるが、会議運営、論文募集、プログラム作成等に URSI 本部が積極的に関わっており、より国際的になっている。次回 URSI AP-RASC は、2022 年 8 月にオーストラリア・シドニーで開催される予定である。</p> <p>(2) 古賀メダル</p> <p>URSI 副会長 (1957 年～1963 年)、URSI 会長 (1963 年～1966 年)、URSI 名誉会長 (1981 年～1982 年) を歴任した古賀逸策博士(1982 年死去)の電波科学に関する偉大な研究業績と URSI 運営に対する多大な貢献を称え、電波科学研究に従事する 35 歳以下の卓越した若手研究者に授与する URSI 学術賞として「Issac Koga Gold Medal」(古賀メダル)を設けることを提案し、実現した。1984 年にイタリア・フィレンツェで開催された第 21 回 URSI 総会にて、第 1 回の古賀メダル授与がなされた。その後、3 年毎に開催される URSI 総会にて、継続的に古賀メダルの授与がなされている。</p>
<p>加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて</p>	<p>(1) 日本学術会議へのメリット</p> <p>URSI が扱う電波科学の分野は、今日の ICT 社会を支えるために極めて重要な役割を果たしている。日本の科学者を代表する組織である日本学術会議が URSI に加入していることは、日本が「国家ならびに政府のレベルで世界の電波科学の発展に貢献すべきである」という姿勢を明確に示すものであり、重要な意義を持つ。</p> <p>(2) 学会へのメリット</p> <p>URSI が対象とする電波科学の分野は幅広く、日本では複数の学会がこれに関与している。日本学術会議が URSI に加入していることは、学会の枠を越えた形で、全体的・包括的な視野に基づいて学会間の連携・調整がなされることにつながり、各学会の発展に有益となる。</p> <p>(3) 日本国民へのメリット</p> <p>日本学術会議が URSI に加入していることにより、産官学が連携しながら電波科学分野の研究を推進し、我が国が世界の中でこの分野に関する主導的役割を果たしていることを、国家レベルで世界に発信することができ、日本国民にとって大変意義がある。また、電波科学が対象とする様々な分野の正確な知識を一般の国民に広く紹介・啓蒙する観点からも、非常に重要である。</p>
<p>その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など)</p>	<p>URSI は、電波科学分野の若手研究者を支援・育成することを最重要課題のひとつに位置づけている。URSI が主催する旗艦会議 (URSI 総会、URSI 大西洋電波科学会議、URSI アジア・太平洋電波科学会議) では、若手研究者プログラム (若手研究者学術賞、学生論文コンテスト) 実施のための予算化を行っている。URSI は更に、分科会 (Commission) が主催する国際会議に対する若手研究者プログラム関係費の支給、並びに各国の URSI 国内委員会が開催する国内会議で実施される学生論文コ</p>

様式第 2 (第12条関係)

	ンテストへの財政支援を行っている。また、電波科学分野の女性研究者を育成・支援することも URSI の重要課題のひとつである。2018 年 URSI 大西洋電波科学会議では、著名な女性研究者によるセッション (Women in Radio Science) を初めて実施し、大きく注目を集めた。
--	--

2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)	日本は、開催候補地を札幌として、第 33 回 URSI 総会 (2020 年) 及び第 34 回 URSI 総会 (2023 年) に立候補した。第 32 回 URSI 総会 (2017 年 8 月にカナダ・モントリオールにて開催) 会期中の URSI 理事会における投票の結果、第 34 回 URSI 総会 (2023 年) の札幌での開催が決定した。
日本人の役員立候補等の予定について	2017 年～2021 年を任期とする URSI 本部役員として、日本から会長 (1 名)、Commission 議長 (2 名)、同副議長 (2 名)、同 ECR (2 名)、副事務局長 (1 名) の合計 8 名が選任されている。今後、次期 (2021 年～2023 年) を任期とする URSI 本部役員の候補者についても、日本から積極的に推薦する予定である。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	「電磁波の科学的利用と商業的利用の共存・共栄」のプロジェクトを推進することを検討している。このテーマは、URSI 分科会が日本学術会議「第 22 期、第 23 期並びに第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン」に提案し、採択されているものである。

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第 11 条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去 5 年間及び今後予定されているもの)	総会開催状況	2023 年 (開催地: 日本・札幌予定) 2021 年 (開催地: イタリア・ローマ予定) 2020 年 (開催地: オンライン) 2017 年 (開催地: カナダ・モントリオール) 2014 年 (開催地: 中国・北京)
	理事会・役会等開催状況	(1) 理事会会議 (Council Meeting 及び Informal Council Meeting) <ul style="list-style-type: none"> ・ Council Meeting <ul style="list-style-type: none"> 2023 年 (開催地: 日本・札幌予定) 2021 年 (開催地: イタリア・ローマ予定) 2017 年 (開催地: カナダ・モントリオール) 2014 年 (開催地: 中国・北京) ・ Informal Council Meeting <ul style="list-style-type: none"> 2022 年 (開催地: スペイン・グランカナリア予定、オーストラリア・シドニー予定) 2019 年 (開催地: インド・ニューデリー) 2018 年 (開催地: スペイン・グランカナリア) 2016 年 (開催地: 韓国・ソウル) 2015 年 (開催地: スペイン・グランカナリア) (2) 役員会会議 (Board Meeting) <ul style="list-style-type: none"> 2023 年 (開催地: 日本・札幌予定)

様式第2 (第12条関係)

		<p>2022年 (開催地: スペイン・グランカナリア予定、オーストラリア・シドニー予定)</p> <p>2021年 (開催地: オンライン数回予定、イタリア・ローマ予定)</p> <p>2020年 (開催地: イタリア・ローマ、オンライン12回)</p> <p>2019年 (開催地: ベルギー・ブリュッセル、インド・ニューデリー)</p> <p>2018年 (開催地: スペイン・グランカナリア)</p> <p>2017年 (開催地: カナダ・モントリオール)</p> <p>2016年 (開催地: ベルギー・アントワープ、韓国・ソウル)</p> <p>2015年 (開催地: スペイン・グランカナリア)</p> <p>2014年 (開催地: ベルギー・アントワープ、中国・北京)</p> <p>2013年 (開催地: ベルギー・アントワープ)</p>
	<p>各種委員会 開催状況</p>	<p>(1) 調整委員会会議 (Coordinating Committee Meeting)</p> <p>2023年 (開催地: 日本・札幌予定)</p> <p>2022年 (開催地: スペイン・グランカナリア予定、オーストラリア・シドニー予定)</p> <p>2021年 (開催地: イタリア・ローマ予定)</p> <p>2019年 (開催地: インド・ニューデリー)</p> <p>2018年 (開催地: スペイン・グランカナリア)</p> <p>2017年 (開催地: カナダ・モントリオール)</p> <p>2016年 (開催地: 韓国・ソウル)</p> <p>2015年 (開催地: スペイン・グランカナリア)</p> <p>2014年 (開催地: ベルギー・アントワープ、中国・北京)</p> <p>2013年 (開催地: ベルギー・アントワープ)</p> <p>(2) AP-RASC 常置委員会会議 (AP-RASC Standing Committee Meeting)</p> <p>2022年 (開催地: オーストラリア・シドニー予定)</p> <p>2019年 (開催地: インド・ニューデリー)</p> <p>2016年 (開催地: 韓国・ソウル)</p> <p>(3) ECR 委員会会議 (ECR Committee Meeting)</p> <p>2023年 (開催地: 日本・札幌予定)</p> <p>2022年 (開催地: スペイン・グランカナリア予定、オーストラリア・シドニー予定)</p> <p>2021年 (開催地: イタリア・ローマ予定)</p> <p>2019年 (開催地: インド・ニューデリー)</p> <p>2018年 (開催地: スペイン・グランカナリア)</p> <p>2017年 (開催地: カナダ・モントリオール)</p> <p>2016年 (開催地: 韓国・ソウル)</p> <p>2015年 (開催地: スペイン・グランカナリア)</p> <p>(4) 分科会ビジネスミーティング (Commission Business Meeting)</p> <p>2023年 (開催地: 日本・札幌予定)</p> <p>2022年 (開催地: スペイン・グランカナリア予定、オーストラリア・シドニー予定)</p> <p>2021年 (開催地: イタリア・ローマ予定)</p> <p>2019年 (開催地: インド・ニューデリー)</p> <p>2018年 (開催地: スペイン・グランカナリア)</p>

様式第 2 (第12条関係)

		<p>2017年 (開催地: カナダ・モントリオール) 2016年 (開催地: 韓国・ソウル) 2015年 (開催地: スペイン・グランカナリア) 2014年 (開催地: 中国・北京)</p> <p>(5) Radio Science Bulletin 会議 (Radio Science Bulletin Meeting) 2023年 (開催地: 日本・札幌予定) 2022年 (開催地: スペイン・グランカナリア予定、オーストラリア・シドニー予定)</p> <p>2021年 (開催地: イタリア・ローマ予定) 2019年 (開催地: インド・ニューデリー) 2018年 (開催地: スペイン・グランカナリア) 2017年 (開催地: カナダ・モントリオール) 2016年 (開催地: 韓国・ソウル) 2015年 (開催地: スペイン・グランカナリア) 2014年 (開催地: 中国・北京)</p> <p>(6) 加入国会議 (Member Committee Meeting) 2017年 (開催地: カナダ・モントリオール)</p>
	<p>研究集会・会議等開催状況</p>	<p>(1) URSI 総会 (URSI GASS) 2023年 (開催地: 日本・札幌予定) 2021年 (開催地: イタリア・ローマ予定) 2020年 (開催地: オンライン) 2017年 (開催地: カナダ・モントリオール) 2014年 (開催地: 中国・北京)</p> <p>(2) URSI 大西洋電波科学会議 (URSI AT-RASC) 2022年 (開催地: スペイン・グランカナリア予定) 2018年 (開催地: スペイン・グランカナリア) 2015年 (開催地: スペイン・グランカナリア)</p> <p>(3) URSI アジア・太平洋電波科学会議 (URSI AP-RASC) 2022年 (開催地: オーストラリア・シドニー予定) 2019年 (開催地: インド・ニューデリー) 2016年 (開催地: 韓国・ソウル) 2013年 (開催地: 台湾・台北)</p>
<p>上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・2019年: 2019年アジア・太平洋電波科学会議 (インド・ニューデリー) 日本人参加者 約70人 (うち代表派遣0人) ・2018年: 2018年 URSI 大西洋電波科学会議 (スペイン・グランカナリア) 日本人参加者 約40人 (うち代表派遣1人) ・2017年: 第32回 URSI 総会 (カナダ・モントリオール) 日本人参加者 111人 (うち代表派遣1人) ・2016年: 2016年アジア・太平洋電波科学会議 (韓国・ソウル) 日本人参加者 126人 (うち代表派遣1人) ・2015年: 2015年 URSI 大西洋電波科学会議 (スペイン・グランカナリア)

様式第 2 (第12条関係)

	日本人参加者 約 40 人 (うち代表派遣 1 人) ・ 2014 年 : 第 31 回 URSI 総会 (中国・北京) 日本人参加者 114 人 (うち代表派遣 1 人) ・ 2013 年 : 2013 年アジア・太平洋電波科学会議 (台湾・台北) 日本人参加者 177 人 (うち代表派遣 0 人)			
国際学術団体における 日本人の役員等への就 任状況 (過去 5 年) *ECR (Early Career Representative : 若手キャリア代表)	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	URSI 副会 長・会長	2011 ~ 2021 (予定)	安藤 真	(20・24 期) 会員・ 連携
	URSI 副事 務局長 (AP-RASC 担当)	2015 ~ 2021 (予定)	小林 一哉	(22~23 期) 会員・ 連携
	A 分科会副 議長・議長	2011 ~ 2021 (予定)	小山 泰弘	(23~24 期) 会員・ 特任連携
	B 分科会副 議長・議長	2014 ~ 2021 (予定)	小林 一哉	(22~24 期) 会員・ 連携
	D 分科会副 議長・議長	2017 ~ 2023 (予定)	篠原 真毅	(24 期) 会員・ 特任連携
	K 分科会副 議長・議長	2008 ~ 2014	多氣 昌生	(期) 会員・連携
	K 分科会副 議長・議長	2017 ~ 2023 (予定)	伊藤 公一	(24 期) 会員・ 特任連携
	F 分科会 ECR *	2017 ~ 2023 (予定)	佐々木 元晴	(期) 会員・連携
	K 分科会 ECR *	2017 ~ 2023 (予定)	佐々木 謙介	(期) 会員・連携
出版物	1 定期的 主な出版物名 (年 4 回) The Radio Science Bulletin (年 1~2 回) URSI Radio Science Letters (3 年毎) URSI 総会プロシーディングス (3 年毎) URSI 総会報告書 (3 年毎) AT-RASC プロシーディングス (3 年毎) AP-RASC プロシーディングス 2 不定期 主な出版物名 URSI Newsletter			
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 ・ The Radio Science Bulletin (http://www.ursi.org/publications.php#tab-section2) ・ URSI Radio Science Letters (http://www.ursi.org/publications.php#tab-section3) ・ The URSI Newsletter (http://www.ursi.org/publications.php#tab-section1) ・ URSI 総会プロシーディングス (http://www.ursi.org/proceedings.php) ・ URSI 総会報告書 (http://www.ursi.org/proceedings.php#tab-section4) ・ AT-RASC プロシーディングス (http://www.ursi.org/proceedings.php#tab-section2) ・ AP-RASC プロシーディングス (http://www.ursi.org/proceedings.php#tab-section3)				

様式第 2 (第12条関係)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第 3 条、4 条、5 条)

国内委員会 (内規 4 条第 3 号)	委員会名	電気電子工学委員会 URSI 分科会
	委員長名	八木谷 聡
	当期の活動状況	<p>(開催日時 主な審議事項等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 4 回 (R2. 9. 30 URSI 分科会の活動について、URSI 本部への対応について、URSI 総会への対応について、日本電波科学会議の開催について、URSI 総会の札幌開催について、シンポジウムの開催について、次期の体制について、次期の活動について、小委員会の活動について) ・ 第 3 回 (H31. 4. 26 URSI 分科会の活動について、URSI 本部への対応について、URSI Century Book の作成について、URSI 総会の札幌開催について、シンポジウムの開催について、小委員会の活動について、アジア・太平洋電波科学会議の開催について) ・ 第 2 回 (H30. 7. 11 第 24 期 URSI 分科会の立上げについて、URSI 分科会の活動について、URSI 本部への対応について、第 34 回 URSI 総会 (2023 年) の札幌開催について、URSI 100 周年記念シンポジウムの開催について、小委員会の活動について) ・ 第 1 回 (H30. 2. 5 第 24 期 URSI 分科会の立上げについて、第 24 期 URSI 分科会の開催計画について、第 24 期 URSI 分科会の重要課題について、URSI 本部への対応について、第 32 回 URSI 総会 (2017 年) の開催について、2018 年 URSI 大西洋電波科学会議の開催について、2019 年 URSI アジア・太平洋電波科学会議の開催について、第 34 回 URSI 総会 (2023 年) の札幌開催について、小委員会の活動について)
内規第 3 (国際学術団体の要件関係)	<p>国際学術交流を目的とする非政府かつ非営利的団体である</p> <p>① 該当する 2. 該当しない</p> <p>※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (http://www.ursi.org/ursi_statutes.php)</p> <hr/> <p>各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か)</p> <p>① 該当する 2. 該当しない</p> <p>※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (http://www.ursi.org/ursi_statutes.php; http://www.ursi.org/committees.php)</p>	

様式第2 (第12条関係)

<p>下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印)</p> <p>① 個々の学術の専門分野における統一かつ世界的な組織を有するもの</p> <p>イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一かつ世界的な組織を有するもの</p> <p>ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの</p> <p>エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</p>	
<p>10 ヲ国を超える各国代表会員が加入している</p> <p>① 該当する 2. 該当しない</p>	
<p>加入国数及び 主要な各国代 表会員を 10 記載</p>	<p>(44 ケ国)</p>
	<p>・各国代表会員名／国名</p> <p>Prof. S. RENGARAJAN／米国</p> <p>Prof. M. WARRINGTON／英国</p> <p>Prof. J-B AGNANI／フランス</p> <p>Prof. L. KLINKENBUSCH／ドイツ</p> <p>Dr. Yu. V. GULYAEV／ロシア</p> <p>Prof. R. SORRENTINO／イタリア</p> <p>Prof. D. MICHELSON／カナダ</p> <p>Prof. P. D. SMITH／オーストラリア</p> <p>Prof. P. VAN DAELE／ベルギー</p> <p>Dr. G. S. LAKHINA／インド</p>